



北高夢ロード通信

第4号 (2019.3)

「北高夢ロード」設立・「アートの本棚」開設5周年を終えて

会長 岡崎新太郎

会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

5周年の諸行事への参加・協力・支援を感謝いたします。今年度を終える今、会員の皆様に街の様子をお伝えしましょう。

滝部下市の「アートの本棚」を置かせていただいている笹尾商店の笹尾のおばさまはお元気で、会の用事で訪問するたびにさわやかな笑顔で「ご苦労様」とねぎらってくださいます。

笹尾商店から40mばかり北高よりに歩いてゆくと「ギャラリー夢ロード」の表示がガラス窓越しに見えます。元木本陶器店の店舗空間を使わせていただいて4回の展示会をしました。その度にギャラリーを訪れて来られる町の人が増え、そこでお互いの生活・これからの下市、豊北町の将来、北高への期待などよもやま話が展開します。下関北高の「総合文化部」の生徒さんもその都度訪れてくれています。この4月からは会員の有田敏朗先生による高校生のためのデッサン教室がここで始まります。

JR滝部駅には「北高夢ロード提供の傘置き場」が健在です。通学路に3か所傘が置いてあります。恒畠さんのお世話で北高の卒業生の方々に協力をいただき、提供の傘は累計600本になりました。

豊北・下関北高の生徒たちの活躍については、「地域創生政策アイデアコンテスト・地方創生担当大臣賞（最優秀賞）」受賞という快挙、また「キャリア教育優良学校」として文部科学大臣表彰を受賞したのは、教職員と生徒の一体となった活動の結果です。下関北高一期生を新入生に迎えるということで、よき伝統を自分たちでつくるのだと2年、3年の北高生が頑張ったことも強く感じることができました。

また、今年度は8月18日の中・高生と考える地域づくり・異文化交流の集い「豊北を世界に、世界を豊北に 第1回 地球旅、そしてチュニジア」、5月22日「ギャラリー夢ロード」開設と4回の展示会、6月—3月「栗野川流域生態系調査と計画 下関北高との協同」を5周年の特別事業として組みました。それぞれの報告をご覧ください。

本年度16名の方が新たに会員に加わってくださいました。また、「寄付—北高夢ロード実行委員会5周年協賛金」をお願いいたしました。会員外の方にも賛同をいただき、都合22名の方々から総額235,000円のご寄付をいただき、お蔭様で特別事業を展開できました。

会の本旨である豊北のまちづくり、豊北・下関北高生への支援の事業展開のために頑張っ
て参ります。その方法や経費捻出について、会員の皆様と一緒に知恵を絞りたいと考えています。

「北高夢ロード」5周年 中・高生と考える 地域づくり・異文化交流の集い
豊北を世界に、世界を豊北に

第1回 地球旅、そしてチュニジア(下関市市民活動支援補助金助成事業)

集いの概要

第1回の集いは、2018年8月18日(土) 滝部公民館(太陽館)で開催された。(発表者の所属は、会報第3号参照) 基調講演は、西野旅峰氏「旅という火と旅からの風―自転車地球散歩より―夢と世界と僕らの話」。幼い頃からアマゾンやサハラの写真集を見て夢を膨らませ、大学時代には日本縦断、南米縦断も。卒業後、サラエボやルワンダなど苦難を経験した都市や国の人びととも直に触れあった。そのような経験の中から、国際人とは何か問うて、まずは人間的なやさしさ、心の交流のできることを挙げた。そして、あいさつ(思いやり)の種をまけ、と結んだ氏のメッセージは、数多く投影された土地土地の写真や映像、笛の実演などもあって、聴衆に深く訴えかけた。

次に異文化交流の事例として、飯野ベスマ氏指導によるチュニジア料理体験(p.3参照)および音楽とダンスの実演があり、飯野修身氏は、「異文化交流の試み チュニジアと日本」でチュニジアの歴史や風土を紹介したあと、形式的な姉妹都市などによらず、相互の特色を活かした人的・物的交流の余地のあることを強調した。



さらに、波多野宏之氏「異文化との出会いから生まれた名画―西洋美術の場合―」は、アルジェリア訪問から多大な影響を受けたドラクロアのくアルジェの女たちを例に、オリエンタリズムの眼差しの問題についても検討した。

増田玲子氏は「四か月のテキサス留学」において、とくに家族や学生の在り方・考え方が多様であること、インターナショナルであるためにナショナルな視点が必要なことを指摘した。

竹村和之氏は「高校教育と地域創生・異文化交流」を改題し、「この豊北で異文化を考える」として、まず高齢化先進地域である豊北町の現状を諸地域と比較し、県内外の対策成功事例も紹介した。高校にまつわる本題では、北高ではライオンズクラブ支援による1名2週間の海外留学派遣や世界の貧しい子供たちへの支援の取り組み、下関北高でのハングル・中国語の選択授業などを踏まえ、豊北から世界へ向ける目をさらに広げるべきこと、将来日本の大学への入学を希望する海外学生を高校に呼びこもうとの提言があり、そのためには日本語教育・宿泊施設等の支援体制で地域の覚悟も促した。

最後の討議では、異文化交流の必要性を再確認したうえで、地域のよさをそれぞれの立ち位置から発信していこうとの発言が相次いだ。

今後の課題

今回の集いは、チュニジア料理を作り、参加者とともに味わうなどこれまでにない実践的な試みを含むものであった。下関市市民活動支援補助金も交付され、講師の皆さまのほか、とくに料理作りでは別掲のように多方面からサポートをいただき、まさに異文化交流の場となったのは大きな収穫と言えよう。料理体験(昼

食)を有料としたにもかかわらず、70名募集のところ55名の参加があったのは、まずまずの結果であろう。ただ、「中・高生と考える」と銘打ったにものの、生徒の参加がごく僅かだったのが惜しまれる。高校生による集いの取材・発表も実現せずに終わった。夏休みという時期の問題を含め、中・高校とのより綿密な打ち合わせが必要と思われた。(波多野宏之)

チュニジア料理を通しての異文化交流

今回、チュニジア料理を作るお手伝いをさせていただきました。それは、お昼の休憩の間に来場者に提供するためのもので、指導して下さったのは、チュニジア生まれの飯野ベスマさん。横浜からの応援2名の他、地元からは食生活推進委員の方々、夢ロードの女性会員さん、他有志の方達が公民館の調理室に集まって、はるか地中海の沿岸にあるチュニジアという国の料理を80人分作ったのです。前日からの仕込みを入れて2日間、和気あいあいと料理作りに取り組み、作っている間もベスマさんと私たちの間にはフランス語と英語、そして日本語が飛び交って、そのやり取りはとても楽しいものでした。4種類のメニュー(野菜のクスクス、タジン、チュニジア・サラダ、ニンジン・サラダ)は、どれも日本人にはあまり馴染みのないものでしたが、皆さんの口にとっても合っているようでした。笑顔で食事されているのを見て、交流の意義を改めて想い、こちらから爽やかな気持ちで散会できたことが印象に残っています。(磯部珠枝)



ギャラリー夢ロード第2回展示会 通学路の移り変わりと「北高夢ロード」 の5年展

2018年8月10日(金)~19日(日)
第1部 通学路の移り変わり(写真 上)では、豊北歴史民俗資料館、中山淳氏等からご提供いただいた写真30点のほか、「花御堂」と「象」(p.4 写真 左下)、駅前・下市地図、一式、第2部「北高夢ロード」の5年展では、写真30点、チラシ等の資料60点が展示された。

大正から戦前・戦後と移り変わる下市・上市の変貌ぶりを目のあたりにして話が弾んだ。

今回の展示にあたっては、会員の藤岡達雄氏が写真の収集に当たり、キャプションについては恒富副会長の尽力があったほか、会期中に写真を提供される方もあり、今後、さらに本格的な写真探索が期待される。

キャプションについては、場所の特定が難しいものや年代の不確かなものもあり、引き続き、多くの方に写真をみていただき、周知を集めて解明に努めたいところである。



白い象

世界にたった一頭の白い象、滝部に生まれ、たくさんの地域の人に見守られ愛されたことでしょう。

第2回ギャラリー夢ロードの企画は、「通学路の移り変わり」と『北高夢ロード』の5年ということで、下市の通りの古い写真がたくさん集まりました。その中に、春の「花まつり」の行事の一つ、お釈迦様の誕生を祝う稚児道中の写真がありました。白い象の背中に花で飾ら

はなみどう

れた小さな花御堂を乗せて、小学一年生の小さな子ども達が、その白い象をリヤカーに乗せての行列です。子ども達の家族や町の人達は沿道で見守り、それは大賑わいでした。あのとき小学1年生だった子ども達は……今は北高生の父母位の年齢かな。その子を支えた人は、今ではおじいちゃん、おばあちゃん……。

この写真を見たときに“ピンときたのです♪”あのときの白い象は今どうしているのかと。あちこち問い合わせたところ大切に保存されていることがわかり、当日、あの場所にモニュメントとして登場したわけでした。

なんと壮大なロマンでしょう。あの白い象の小さな目にはどんな願いがかけられていたのでしょうか。
(末永登紀子)



第3回展示会

吉田成「残された原風景：東京、佃・月島界限」写真展

2018年11月6日(火)～18日(日)
今回は、30点の作品を大型インクジェット紙2枚にレイアウトして展示する「フォト・インスタレーション」という新しいスタイルの展示である。ギャラリーを包み込む滝部下市の古い街並みと作品とが一体となって、感慨深い展示会となった。



第4回展示会

ミロのヴィーナスからデュシャンまで：「アートの本棚」大展示

2019年2月5日(火)～17日(日)
「アートの本棚」所蔵資料の中から約200冊を抜粋して展示。壁面には、故我妻千賀子さんの日本画5点なども。21日(金)には、下関北高総合文化部の生徒15名が来場して約1時間、思い思いに本をめくり、話し合った。



滝部公民館祭りに参加

10月27日(土)、昨年に続き、夢ロードでは、広報の一環として滝部公民館祭りに参加しました。今回は、昨年の反省を踏まえ、具体的に活動内容を示すため、岡崎会長が活動記録の写真をプロジェクターで投射しながら説明したほか、和室の一画をお借りして資料を展示しました。北高卒業生や主婦の方で熱心にご覧になる方もあり、会員との対話もはずみしました。



(写真提供：古田雅士氏)

<アートの本棚>展示

決定的瞬間：今日の写真と写真の歴史

10月27日(土)～11月9日(金)の読書週間に、豊北高校図書室において<アートの本棚>展示を標記のタイトルで開催。第1部 写真の歴史、第2部 現代の写真、第3部 東京都写真美術館：設立の経緯と現在 に分け、合計で図書約60冊、雑誌(逐次刊行物)2タイトル約80冊を展示しました。

(写真提供：豊北高校)



「先輩の本棚」第2年次と展示会

昨年に続き、夢ロードでは北高OBへの著作寄贈を呼び掛け、今回、3名16冊を北高に手渡しました。このほか、1名から2冊が直接北高に届けられ、都合4名18冊が11月7日(水)～11月25日(日)、下関市立豊北図書室で展示されました。今回ご寄贈いただいたのは下記の方々です。(敬称略 卒業年度・五十音順)

熊井清雄(1953)、中村高月(1953)、安富俊雄(1968)、山村勇介(2000)

今回の展示会には、昨年度の寄贈分のほか、北高の学校誌『あしかび』(『葦芽』)も展示されました。長い歴史の中で、親子で寄稿されたという方もあり、感慨深い展示となりました。

なお、この展示会には展示されませんでした。下記のご寄贈もいただいたとのことです。

西島千香子(1957) 6冊

2019年度も、最終年度として事業を継続いたします。情報のご提供は、担当波多野 hatanomade@gmail.com 宛お願いします。



豊北の水と生態系の研究 下関北高協同 栗野川流域図作成を原点に

研究計画の源流

世界的な水研究に対する国際的な賞に「ストックホルム水大賞」というものがあります。山口県の公立高校の生徒が何度か全国予選を通過してストックホルムに行き、研究発表をしています。いつか、北高の後輩たちがストックホルムに行くというチャレンジをしてもらいたいと願っていました。幸いに豊北町には栗野川という豊北町民の生活に恵みを与え、時には大きな災害をもたらした栗野川があります。そして栗野川の科学的な、また歴史的な研究の蓄積を豊北町の先達達が残してくれています。

栗野川は油谷湾・角島の漁場の豊かさの源でもあります。豊北の水ー栗野川と角島、そして油谷湾というテーマがそこにあるのです。

北高夢ロードとして栗野川流域のホテル観察を2年ばかり続けて北高生たちとやってきました。その延長線上での研究でもあります。「ストックホルム」は数年先の挑戦としても地道に水になじみ、水に遊ぶ体験から徐々に深い研究に入ってゆけるよう長期的な視点で下関北高協同を考えています。

上記のテーマで山口ひとづくり財団の助成と富士フィルムグリーンファンドの助成事業に応募し、採択されて活動資金と必要機材の購入のめどがつかしました。山口ひとづくり財団の助成は2018年度のみ、富士フィルムファンドの助成は2018、19年の2年間の研究に対するものです。

豊北高校3年生の「自然探究」という選択授業で栗野川を取り上げていただき、私も数回受講の生徒さん、ご指導される倉橋先生に同行し、栗野川の数か所に行きました。また、栗野小学校の子どもたちに高校生が栗野川につい

て語るという特別企画も見せていただきました。今年の「自然探究授業」は栗野川およびその流域を地質学の視点から見てゆこうというものでスケールの大きい視野での考察でした。

栗野川共生会の方々のご案内で栗野川河口付近から油谷湾まで船をだして巡検をさせていただく機会も与えられました。

2月、3月には下関北高付近の栗野川支流に入って生物相を観察する。3月中旬にはまとめの報告会を持ち、栗野川自然研究の先達の先生方のお話を聞き、次年度の下関北高のサポートの在り方を探ります。

2019年度支援計画

下関北高2年生(2019年度カリキュラム)で「地域探求」という授業展開が始まります。その中で「自然・環境」という分野では案として次の三つのテーマが設定されています。

○豊北の水(栗野川・角島)に関する研究

○ホテル等、豊北に生育する生き物の調査・研究

○有害獣を利用した新メニューの開発

そのどれかに北高夢ロードとして関与してゆくこととなります。

豊北町の自然の恵み

栗野川シロウオ漁・アオノリ漁の今後が危惧されています。昨年に続きアオノリが立たない、シロウオ漁も不漁と聞きました。とても大きな問題で、様々な側面からの接近が可能ですが、下関北高の生徒たちの興味や関心を尊重しながら自然科学的な視点で栗野川を高校生と見つめてゆきたいと思います。

研究の人の輪を大きくする

3月のまとめの会でお話しをいただく伊藤忠雄先生がつくられた「栗野川研究DVD」を見させてもらいました。これから取り組みたいことがすでに30年前になされていることを知りました。高校生、また、豊北町の方々との研究の輪を大きくすることが肝心と思われています。(岡崎新太郎)

特別寄稿 人生の礎

川部 那萌

高校 3 年間で振り返ると、勉強や部活、将来のことなど悩みの尽きない日々でしたが、様々な経験をさせていただき多くの出会いや学びがありました。

豊北高校では基本的な学習に加え、選択科目や講演会などで豊北町について学ぶ機会がありました。例えば、豊北歴史民俗資料館の館長である吉留さんに浜出祭についてお話いただく講演会では、7 年に 1 度の祭りで古式に則り祭事が行なわれていくということなどを学びましたが、その講演会を機に興味を持ち、実際に祭りを見に行きました【下写真】。伝統的な衣装をまとった人々が大規模の行列を成し町を練り歩く様子に圧倒させられ、その祭りが地元の方を中心に行なわれているということを知り驚き、同時に祭りの担い手である若者が減少しているという問題点について考えさせられました。7 年に 1 度の祭りだからこそ、その間は祭りについて知る機会はなかなか無いと思います。そのため若者を中心にその情

報を発信していく必要があるのではないかと考えます。

また私事ではありますが 2 年時に、学校法人穴吹デザイン専門学校主催の第 22 回高校生デザイン大賞でのフォト部門賞の受賞【下写真】を機に、写真撮影に精力的に取り組んで参りました。独学であったため分からないこともありましたが、アートの本棚やギャラリー夢ロードで写真に関する技術を学ばせていただき、そのうえ画集や展示を通じて“本物”の写真や絵画に触れ、感性を磨かせていただくこともできました。

進学した後は高校生活での経験を生かし、豊北町をはじめとする山口県内の町の隠れた魅力をより効果的に発信する方法を研究し、いずれはこれからの山口を担っていく若者を中心に、多くの方にその魅力を伝えていく仕事をしたいと考えます。学校の先生方や地域の方、両親など、多くの方にお世話になってきましたが、その感謝の気持ちを伝えるため、そして生まれ育ったこの豊北町のためにも、これからますます励んで参りたいと思います。

(山口県立豊北高校 3 年)



2019 年度

総会・音楽の夕べ・ 懇親会のご案内

北高夢ロード実行委員会会員の皆様

日頃、会の運営にご支援・ご協力をいただき、ありがとうございます。

2019 年度北高夢ロード実行委員会総会を開催いたします。あわせて、音楽の夕べ・交流会（懇親会）も下記の要領で開催いたしますので、ご多忙中とは存じますが、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご出席の有無等同封のはがきにご記入のうえ、4月20日（土）までに届くようにご投函ください。

会長 岡崎新太郎

記

日時：2019年4月27日（土）

場所：滝部公民館(太陽館)

下関市豊北町滝部 3397-12

電話：083-782-1296

スケジュール：

14:00-15:30

総会（会議室）

主な議題

2018 年度事業報告・決算報告

2019 年度事業計画・予算案

会則改正

役員改選

16:00-17:15

夢ロード「音楽の夕べ」（講義室）

◎管楽器の楽しさ

演奏：長州ブラスアンサンブル

（吉田秀樹ほか）

花 おぼろ月夜 など

◎朗読 金子 達（俳優・声優）

◎みんなで楽しく歌おう

演奏：軽音楽バンド ライトハウス

（藤岡達雄ほか）

瀬戸の花嫁 ふるさと など

17:30-19:00 交流会（懇親会）

（和室）

参加費：1,500 円（軽食と飲み物代）

当日お受けします。

会員外で交流会参加ご希望の方は、

090-5548-5892（古田）まで。

会費納入のお願い

2018 年度会費を未納の方は、この会報第 4 号に同封の振替用紙で、正会員一口 1,000 円、賛助会員一口 3,000 円をご納入ください。

北高夢ロード通信 第 4 号（年 2 回刊）

2019 年 3 月 20 日発行

編集：会報編集委員会

（波多野・古田・村上・戸田）

発行：北高夢ロード実行委員会

〒759-5511

山口県下関市豊北町滝部 856-9

Tel: 083-252-6032

ホームページ：<http://yumeroad.org>

E-mail: kitakoyumeroad@gmail.com